

平成 25 年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録

- 関東・甲信・静支部 -

日時：平成 25 年 7 月 16 日（火）13:30～16:00

会場：栃木県庁 研修館 201 会議室

（栃木県宇都宮市埴田 1-1-20）

1 開会

2 挨拶

栃木県保健環境センター

次長兼企画情報部長 森川 博夫

3 議 事

(1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省 水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 大久保 敦

(2) 平成 24 年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

（一財）日本環境衛生センター 環境科学部 主査 西尾 高好

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

（一社）国際環境研究協会 プログラムオフィサー 植弘 崇嗣

帝京平成大学 薬学部薬学科 教授 西村 哲治

愛媛大学 農学部 環境計測学 助手 松田 宗明

4 質疑応答

（参）：参加者 （助）：助言者・有識者

(1) 土壌分析について

（参） 土壌の試験において、今後、告示 18 号に基づく土壌溶出量試験を行う予定はあるか。

（助） 今回の調査は農用地土壌汚染防止法に基づく試験、過去には告示19号に基づく土壌含有量試験を実施しており、告示18号に基づく溶出試験は、水による溶出であり別試験となる。溶出では土壌混入は排除するものとされており、今後溶出試験を告示18号の方法で行うとするかは、調査計画立案の段階での検討が必要と思われる。

（参） 土壌混入の排除は困難なことも多いのでお聞きした。何か良い方法はないか。

（助） 今回の調査では、ろ過方法による有意な差は見られなかった。

(2) 底質試料（有機塩素化合物）の前処理について

（参） 底質試料について、p,p'-DDE の分析に参加したが、前処理にフロリジルを用いず活性炭と銅処理で実施した。結果は満足するものであったが、フロリジルによる前処理と、活性炭による前処理の差はどの程度あるか。

(助) 今回の調査では、フロリジルカラムのみ、シリカゲルカラムのみ、フロリジルカラムと活性炭カラム等その他のカラムとの併用、硫酸シリカゲルカラムのみ、多層シリカゲルカラムのみのクリーンアップが報告されているが、それらクリーンアップの方法による差は認められなかった。なお、フロリジルの代わりに活性炭を用いて分析を行った回答は1であり、フロリジルと活性炭による前処理方法を比較することは難しいです。

5 閉会